

第30回常民文化研究講座

民具を語る 18 ワークショップ

民具研究において

3D技術をどのように活用し得るか

久保 光徳氏

千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート 名誉教授

2026年5月28日(木)

14:30～16:30

神奈川大学横浜キャンパス

3号館地下2階(常民研資料整理修復室)

主催 神奈川大学日本常民文化研究所

参加自由・事前申し込み不要

お問い合わせ先

神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎045-481-5661 内線(4358)

概要：民具を調査し、形態情報を記録する方法として、実測図、スケッチ、写真撮影などの方法があります。これまでもそれらの方法について議論され、それぞれのメリットとデメリットが把握されてきました。近年、それらの方法に加え3D計測が技術的に可能になってきました。

このワークショップでは、「民具研究において3D技術をどのように活用し得るか」について、実演を通じて共有し、3D計測の活用方法について検討します。まずは簡易なスキャンに加え、写真ベースの処理やデータ調整なども含め、複数の手法を比較します。個別資料の完全な復元を目指すのではなく、どのような条件で容易に3D化でき、どのような条件で再現困難なのか、可視化することで「できること／できないこと」を参加者と共有します。

民具の3Dデータ取得の意義は、形をそのまま記録・保存することではなく、その形がどのようになり立っているのかを多角的に観察し、理解するための手がかりを得ることにあります。そして、3Dデータを手がかりとして、民具の構造や製作・使用のあり方を読み解くために視点を広げることにあります。ワークショップでは、方法としての意義について考えます。